非常用浄水装置やハンドポンプ

震災対策技術展　人孔耐震化工法の紹介も

第28回震災対策技術展が8～9日、横浜市のパシフィコ横浜で開催された。約150社・団体が地震・自然災害対策製品・技術ソリューションなどを紹介した。また、能登半島地震に関する報告会も行われた。

防災井戸用ハンドポンプを紹介した日さくブース

出展各社・団体のうち、日さくは、ポンプ部に無駄な力を必要としないベローズ伸縮方式を採用し、ポンプ部を水面下に据付ける構造のため、呼水がいらず、地下水位の低い井戸でも優れた揚水能力を発揮する「防災井戸用ハンドポンプ」を紹介。前澤化成工業は、天昇電気工業と共同出展し、非常用浄水装置「エモータブル」と天昇電気工業のプラスチック製雨水貯留浸透施設「テンレイン・スクラム」を組み合せた雨水活用プランを紹介した。

能登半島地震の報告会

下水道既設管路耐震技術協会は、非開削による地震対策3工法（既設人孔耐震化工法、耐震一発くん、フロートレス工法）を紹介。砂と水と模型を入れた水槽で液状化の際の人孔の動きを見せる実験などを行った。日本技術士会は、管路施設の耐震化、老朽化対策といった上下水道部門などの技術士の活用分野や、自治体との災害支援協定における支援内容を紹介したほか、災害時の安否確認や救援・救護、帰宅判断などについて記載されている防災カード（首都圏版）を配布した。

能登半島地震に関する報告会では、医療ニーズやインフラの被害状況、地盤の液状化などについて報告されたほか、SPECTEE（スペクティ）の村上建治郎・代表取締役CEOが「SNSやAI等の最新の技術がどう使われたか～災害現場で活躍する最先端のテクノロジーとその可能性～」をテーマに講演。地震発生後、自治体からブルーイノベーションなどのドローン関連企業に行われた支援要請から活動までの流れ、イノフェスなどパワーアシストスーツ関連企業による無償貸与、アクセルスペースなど衛星関連企業による衛星データの公開などを紹介した。

また、SNS情報の活用については、デマやフェイクニュースについて言及。AIと人の目で情報をダブルチェックし、発生1分で被災状況を通知する同社のシステムなども紹介した。さらに、防災DXの課題については「公共も民間も利用者側のリテラシーや習熟度が必要」「新しい技術や想定外に対応した法律の見直しが急務」「いざという時に無償提供でよいのか」「リスクゼロを追求しすぎるために新技術のベネフィットが得られない」と指摘した。

水道産業新聞
2024年（令和6年）2月26日（月曜日）